

体調の変化・運転手不足・休日も出勤…

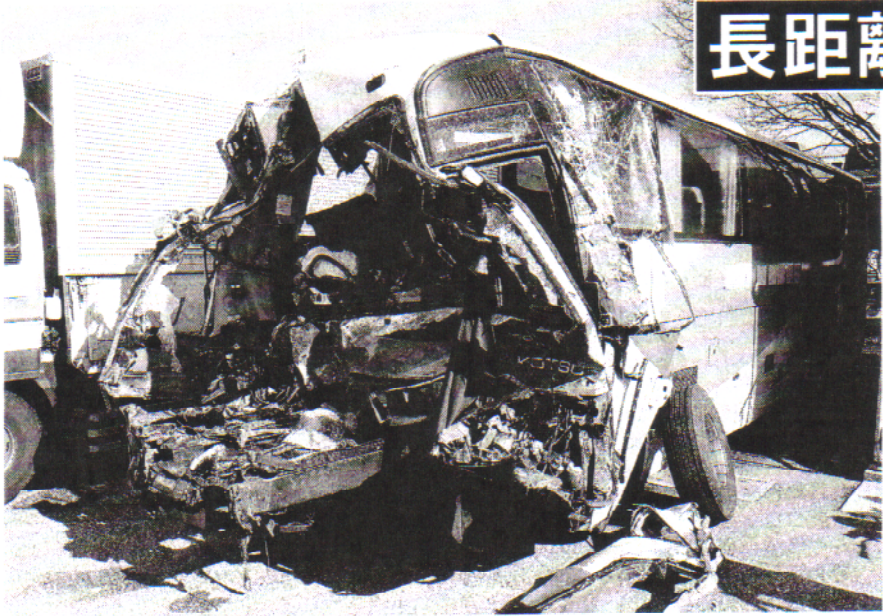
「車掌の同乗」必要

長距離バス事故

事故発生の直前、
「ドン」という衝撃を感じ、運転手に対し「大丈夫か」「起きろ」と呼びかける声が上がっていた。富山県小矢部市の北陸自動車道小矢部川サービスエリア(SA)で起きた宮

城交通の高速夜行バス衝突事故。運転手も1人の人間である以上、体調の変調は避けられません。

これまでも乗客が運転手の異変に気づき、あわててハンドルを握りブレーキを踏み、バ



北陸自動車道小矢部川サービスエリアで2人が死亡する事故を起こした、高速夜行バスの車体。4日午前、富山市

過去のバス事故

①2008年1月	山形県国道	50代運転手	意識失う
②13年7月	宮城県東北自動車道	運転手(37)	心肺停止
③13年7月	三重県東名阪道	運転手(44)	意識失う

スを緊急停止させた例があります。(表参照)

全国自動車交通労働組合総連合会(自交総連)宮城地連宮城県バスユニオン(榊原茂委員長)は、交代運転手がいても、バス中央部の座席下にある仮眠室(トランク)で仮眠をとっては、緊急時に何もできないことから、2000年の規制

緩和で廃止された運転手以外に「車掌(バスガイドなど)の同乗」を義務付けるべきだと緊急に提案しています。同じ公共交通機関の航空機やJRは「副操縦士や車掌が必ず同乗している」と主張しています。

宮城県内の元バス運転手は「宮城交通は最

営バスの委託業務を請け負い、路線を拡充してきた。その半面、運転手が不足し休日出勤が常態化している。事故を起こした運転手も「2月の休日は3日間」と報じられている。

亡くなった運転手の小幡和也さん(37)は昨年10月の検査で睡眠時無呼吸症候群とされ、「体に悪影響はないレベル」だが「要経過観察」と判定されていました。

(遠藤寿人)

勤務・労働条件が問題

労働科学研究所の松元俊主任研究員の話 睡眠時無呼吸症候群がいきなり争点になっているが、その前に、背景の勤務・労働条件が問題だ。「要経過観察」になっても眠気が強く出る人、出ない人がいる。重篤の場合、すぐ治療に入るが、「要経過観察」だと、強い眠気や過去に事故例がなければ、乗務を制限することはない。どういふ状態で乗務を制限するかの指

標がなく会社の判断に任されているのが現状だ。北海学園大学経済学部川村雅則准教授(労働経済論)の話 バス労働者の労働時間は長時間化する一方で賃金は年々低下している。バス運転手に共通する昼に寝て、夜働く、変則的勤務のなかで生活時間や睡眠時間の確保は病気でなくても難しい。病気の労働者に対する運行管理・対策ができていたのが問題だ。